

山ノ内町立学校づくり準備委員会 会議結果報告書

| | | |
|------------------|--|---------|
| 会 議 名 | 第 8 回 山ノ内町立学校づくり準備委員会 | |
| 日 時 | 令和 7 年 1 2 月 1 7 日（水） 午後 5 時 3 0 分～午後 7 時 3 0 分 | |
| 会 場 | 山ノ内町文化センター 3 階ホール | |
| 出席・傍聴人数 | 出席 2 2 人 / 欠席 7 人 | 傍聴者 3 人 |
| 会議内容 | <p>【報告事項】</p> <p>(1) 前回委員会の会議結果について（資料 1）</p> <p>(2) 教育懇談会での学校統合にかかる懇談結果（資料 2）</p> <p>【会議事項】</p> <p>(1) 空き施設の活用について『グループ討議』（資料 3）</p> <p>4 グループにより空き施設となる 3 小学校の活用案の意見を付箋に書き出し、その後「東小」、「南小」、「西小」の 3 グループに再編成し、活用案について議論を深めた。グループごとに作成した模造紙により、議論の内容の共有を図った。</p> <p>(2) 来年度における準備委員会等の進め方について『グループ討議』（資料 3）</p> <p>4 グループに戻り、来年度、準備委員会の委員が半数以上交代になる課題や専門部会の検討内容、構成メンバーについて話し合い、その内容をグループ発表した。</p> | |
| 決定事項等 | ・ 第 9 回学校づくり準備委員会 1 月 14 日(水)17:30～ 山ノ内町文化センター | |
| 会議概要及び 質問・意見等 | <p>【空き施設の活用について】</p> <p>○東小学校の活用に関する提案</p> <p>東小学校については、駐車場を整備し湯田中温泉、渋温泉の回遊できるようにすることやカフェ、レストラン、温泉施設など観光の拠点施設としての活用の提案があった。</p> <p>①交流・飲食スペース</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ カフェ、レストランなど、多文化交流や観光を学べるスペース ・ 週末マルシェや〇〇市場といった定期的なイベント会場 <p>②民間企業・オフィス活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 民間企業の誘致、貸しオフィス、ワークスペースとしての企業オフィス ・ 習い事ができる業者を募集 <p>③観光・宿泊拠点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 観光拠点施設、インバウンド用宿泊施設、低単価のコンドミニアム ・ 温泉施設（足湯、サウナ、温水プール含む）の整備 ・ スキー関係の拠点や、お化け屋敷などのエンターテインメント要素 <p>④公共・教育機能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 中央公民館の機能移設、防災施設（拠点）としての活用 ・ 児童クラブ・こども教室、中高生向けの不登校支援施設、広い児童館 <p>⑤その他・環境</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 小水力発電などのエコサイクルや、保育園のグランドとしての活用 | |

| | |
|--------------------------|---|
| <p>会議概要及び 質問・意見等</p> | <p>○西小学校の活用に関する提案</p> <p>西小学校については、ランチルームやプレイルームなどの広い空間をいかした活用や、夜間瀬駅が近いことをいかし、長野電鉄を利用している学生や沿線市町村からの利用者を見込んでの活用に対する提案があった。</p> <p>①こども・子育て支援・教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育て施設の集約や乳幼児から低学年向けの遊び場、病後児保育、不登校児童向けの学校、プレーパーク、児童センター ・習い事や、フリースクール、教育支援センターとしての活用 <p>②芸術・伝統文化の継承</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然体験（そば打ち、民話、竹細工）や伝統工芸を体験できるスペース ・竹細工等工芸が学べるミュージアムや、芸術家による滞在型の創作の場 <p>③スポーツ・健康増進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ダンス教室や、既存のプールの再活用 ・スポーツ特化拠点や、民間のスポーツ複合施設の導入 ・通年で町外にも貸し出せる体育館としての活用 <p>④民間連携・起業支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・起業支援施設（コワーキングスペース）、シェアオフィス、民間企業の誘致 ・音楽スタジオやゲストハウス、喫茶ルーム、直売所・レストラン <p>○南小学校の活用に関する提案</p> <p>南小学校については、農業や温泉、校舎とグラウンドの高低差を活かしたアウトドア活動、駐車場として利用されている体育館下のピロティをいかした利用などの提案があった。</p> <p>①飲食・宿泊・アウトドア（南ならではの高低差やピロティの活用）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャンプ場、ピロティ下でのバーベキュー、車中泊の場所 ・夜どおしのワークショップなどができる宿泊交流拠点 <p>②農業・食の拠点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農産物直売所、農家レストラン、農業体験施設 ・加工施設の設置や、りんご収穫など農業体験の宿泊施設 <p>③運動・スポーツ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フィットネスジム、トレーニング施設、スポーツ大会ができる広いスペース ・スキー山などでのミニスキー体験、雪遊びスペースとしての整備 ・体育館の町外への貸し出しや町民プールの継続 <p>④公共・文化機能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会教育施設機能（ふれあいセンター、佐野遺跡関連の博物館や美術館など） ・伝統体験教室や、習い事ができる場所の確保 <p>⑤温泉・癒やしの施設</p> <ul style="list-style-type: none"> ・足湯施設や、地域の温泉の集約・移転による温泉施設の開設 <p>⑥企業誘致・創作</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ドローンの練習場や小水力発電の仕組み利用 ・アーティスト誘致や、滞在型の創作の場、コワーキングスペース |
|--------------------------|---|

| | |
|--------------------------|---|
| <p>会議概要及び 質問・意見等</p> | <p>【来年度における準備委員会等の進め方について】</p> <p>①設置する部会と部会で検討する内容について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育部会での教育カリキュラムなどの専門性が高い内容は、必要に応じて準備委員会の本会でも議論する必要があるのではないか。 ・義務教育学校の素地づくりのため、小学生や中学生も交えた会が開催できるとよいと思う。 ・PTA のことと地域連携のことは分離させてもよいのではないか。 <p>②専門部会の構成メンバーについて（「準備委員及び委員の属する構成団体」）</p> <p>○メンバーの多様性と専門性の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・PTA や地域住民だけでなく、民間企業、環境系専門家、観光関係者、社協関係者なども一緒に関わってもらい視野を広げる。 ・外国人の視点（グローバルな視点）を持つメンバーを加え、持続可能な学校づくりを検討していけたらよいと思う。 ・図面を見て議論できる専門家や、保育士などの現場専門職も参画してほしい。 <p>○現役世代・次世代の参画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校の教職員（校長・教頭中心）の参画は必須だが、負担軽減（働き方改革）への配慮も同時に行う必要がある。 ・こども委員、高校生、大学生などの学生メンバーを加え、フレッシュな意見を取り入れるような仕組みが大事である。 ・経験者（PTA 会長等）と新しいメンバーのバランスを考慮したほうがよい。 <p>③準備委員が半数以上交代になる可能性について</p> <p>○会議体の継続性の担保と関わりの維持</p> <ul style="list-style-type: none"> ・委員の交代は前提としつつ、現在の委員が離れないよう、本人の意思を確認して立場を変えても継続できる仕組みを検討していく。 ・「オブザーバー」制度を設け、交代した旧委員や参加を希望する新しい業種の方が、気軽に関わり続けられるようにする。 <p>○参画を促す環境整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・託児施設があると保育園保護者などの若い世代が参加しやすい環境が整えられると思うので検討してほしい。 ・公募枠を設け、意欲のある住民が広く参画できるようにしたらどうか。 ・教育関係以外の各業種の方に積極的に関わってもらえるよう働きかけが大事。 <p>④その他意見（情報の共有について）</p> <p>○情報共有と合意形成の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各部会が同時進行で他部会の状況が見えないため、パドレット（アプリ）などを活用して、意見を書き込み、可視化するようにしてはどうか。 ・各部会の進捗を全体で聞き合い、相互に意見を言う場も必要と思う。 ・部会ごとの開催日をずらすことで、他部会の議論にも関わられるようにできるとよいと思う。 |
|--------------------------|---|

| | |
|--------------------------|---|
| <p>会議概要及び 質問・意見等</p> | <p> 《グループワーク総括》伏木委員長からのまとめ 【来年度の準備委員会等の進め方について】 ①準備委員会・専門部会同時並行開催における情報共有の工夫 ・各部会が同時進行だと他部会の状況が見えないため、デジタルツールの活用や、全体会の中で各部会の進捗を報告し合い、相互に意見を出し合う場の設定できるとよいと思う。 ②教員の参画と負担軽減の両立 ・現場の先生の視点は不可欠だが、負担増にならないよう教育委員会によるバックアップが必要になってくる。 ・調整授業時数制度（授業時数を削減し、地域独自の教育や教員研修に充てる制度）などを先取りし、教員の働き方改革を推進していくことで、「新しい学校づくり」に前向きな参画が促せるのではないか。 ・参画してもらう教員には前例踏襲にとらわれず、こどもたちの未来のために柔軟な発想で議論できる人が望ましい。 ③外部知見の取り入れ ・福祉、社会教育、保育などの専門知識を持つ人を委員として迎えるか、あるいはゲストとして定期的に招聘する仕組みがつくれるとよい。 ④「あて職」からの脱却と継続性の重視 ・来年度以降、所属団体が変わる場合でも本人の継続意思がある場合は、立場を変えて残ってもらえる柔軟な運用が望ましい。 ・現在の委員は非常に素晴らしいメンバーであるため、引継ぎの観点からも、オブザーバーという形もつかって少しでも多くの方が新体制に残ることが望ましい。 ⑤公募制の導入 ・広く住民の意向を反映させるため、委員の公募枠を多くしたらどうか。 </p> |
|--------------------------|---|